

令和8年10月入学
令和9年4月入学

奈良女子大学大学院
人間文化総合科学研究科（博士後期課程）

学 生 募 集 要 項

〔一 般 選 抜〕

〔社 会 人 特 別 選 抜〕

〔外国人留学生特別選抜〕

〔注〕生活工学共同専攻の学生募集要項は別冊子です。

令和8年6月

奈良女子大学大学院
人間文化総合科学研究科

〒630-8506 奈良市北魚屋西町
TEL 0742-20-3023(入試課)
E-mail nyusika@jimu.nara-wu.ac.jp

目 次

I	奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科アドミッション・ポリシー	1～4
---	----------------------------------	-----

II	学生募集要項	5
----	--------	---

1.	募 集 人 員	5
2.	出願期間・試験期日・合格発表日等	5
3.	博士後期課程の目的	6
4.	標準修業年限	6
5.	修 了 要 件	6
6.	博士後期課程修了者が取得できる学位	6
7.	出 願 資 格	6
8.	出 願 手 続	7
9.	選 考 方 法	10
10.	試験内容等	10
11.	オンラインによる口述試験の受験について	10

※本学会場での対面による受験を原則とします

※人文科学専攻（社会人間学講座）、生活環境科学専攻、自然科学専攻志願者のうち
7 ページの表に記載の期日までに認められた希望者を対象

12.	合 格 発 表	11
13.	入学料及び授業料	11
14.	入 学 手 続	12
15.	長期履修学生制度	12
16.	再チャレンジ型女性研究者支援制度	12
17.	博士前期課程修了者博士号取得支援制度	13
18.	博士後期課程学生支援 SGC-NEXUS プロジェクト	13
19.	出願の前に相談や手続きが必要な場合について	13
20.	その他注意事項	14
21.	学生募集及び指導希望教員並びに研究内容に係る問い合わせ先	14

III	各専攻・講座の概要、授業科目及び担当教員一覧	15
-----	------------------------	----

人文科学専攻	15
生活環境科学専攻	17
自然科学専攻	19

I 奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科アドミッション・ポリシー

奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科は、個々の学問領域における専門的な教育研究を推進するとともに、それを基盤として新たに学際的な教育研究を創出することによって、個性豊かで自立した研究者や高度な専門職業人を育成することを目指しています。そして、このような分野から女性リーダーを輩出することによって、男女共同参画社会の実現や国際社会に貢献したいと考えています。

以上のような理念に基づき、次のような人を、国内外から広く受け入れます。

- ・ 学士課程あるいは修士課程・博士前期課程や社会人経験などを通して、大学院教育を受けるために必要となる基礎知識や技能を身につけた人
- ・ 基礎となる専門領域を最先端まで探究しようとする人
- ・ 現代における諸問題を学際的に深く探究しようとする人
- ・ 専門的知識を再構築する意欲や解明したい問題に自ら取り組む意欲をもつ人
- ・ さまざまな分野でアジア諸国をはじめとして国際社会に貢献することを目指す人

上記のような学生を適正に受け入れるために、専攻・講座等の募集単位ごとに、専門性に即した書類審査や口述試験等を組み合わせ、一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜などの多様で適切な選抜を実施します。

各専攻・講座 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

人文科学専攻

【教育理念】

人文科学専攻は、歴史学、言語学、文学、社会学、地理学、心理学、教育学、哲学など人文科学系の学問分野における高度な専門知識と判断力を身に付けて新たな領域を開拓し、社会における様々な問題を解決する能力を備えた人材を養成します。

比較文化学講座は、社会事象——言語認識、西欧世界——アジア世界という二つの基軸を立て、歴史学、文学、言語学などの文化に関わる多様な学問分野からこれを比較研究することを目指しています。高度な専門知識と判断力を身に付けて新たな領域を開拓し、社会における様々な問題を解決する能力を備えた人材を養成します。

社会人間学講座は、社会、文化、地理環境、人間関係、心理、教育などの分野に関する高度な専門的知識を備え、論理的思考力と規範的判断力によって、主体的かつ協働的に社会の課題解決や福利実現や価値創造に向かう、独創的な研究能力と実践的構想力と行動力を身につけることを目指しています。各分野の観点を軸にして、環境、社会、文化における人間行動を統合的に探究し、よりよい社会のあり方と生き方の構築に貢献する能力を備えた人材を養成します。本専攻の求める学生像は以下の通りです。

【求める学生像】

- ・大学院での研究をもとにして、社会に貢献する意欲と熱意をもつ人
- ・人間の営みとしての文化現象を、情報の観点から分析し研究することに関心をもつ人
- ・ジェンダー・文化振興などの分野での専門的リーダーとして活躍しようとしている人
- ・インクルーシブな社会の実現あるいは文化や産業の振興において、教育・研究機関の研究者、または、行政、地域再生、社会福祉事業、NPO、NGOなどの高度専門職におけるリーダーとして活躍しようとしている人
- ・文献や資料の読解から、実験や調査、研究発表を含む研究活動において、必要な外国語能力を有している人
- ・国際的、特にアジア地域の発展に貢献しようとしている留学生、社会人

大学院の博士後期課程においてこのような志を実現するためには、前提として博士前期課程において修士論文またはそれに相当する学術論文の作成を通じて、上記にある分野の先端的研究に必要な専門知識、問題意識、資質・能力・活用力（思考力、判断力、表現力）、多様性において対話または協働する主体的な姿勢・態度、研究に必要な外国語能力を身につけていることが必要です。

【入学者選抜の基本方針】

上記の【求める学生像】で示す能力等を有する人を多角的・適正に受け入れるために、以下の方法により選抜します。

（１）一般選抜

個々の専門性に即し、口述試験・筆記試験等による適切な選抜試験を実施します。口述試験は、修士論文等の提出論文、希望研究課題を中心に行います。筆記試験（比較文化学講座のみ）では、修士論文等の提出論文、希望研究課題に関連した問題を課します。なお、口述試験・筆記試験等では分野によっては入学後の教育に必要な外国語能力の審査を含む場合があります。

比較文化学講座の口述試験では、研究計画、社会に対する問題意識と課題に取り組む意欲、言語コミュニケーション能力を評価します。なお、比較文化学講座では、主として文献をあつかう分野であることから、筆記試験を行うことで外国語を含む文献読解力や文章表現力を評価します。可否は、修士論文等の提出論文、口述試験・筆記試験の成績と、書類審査の結果を総合して判定します。

社会人間学講座の口述試験では、社会に対する問題意識と課題に取り組む意欲、修士論文等のこれまでの研究成果、後期課程での研究計画、発表能力（プレゼンテーション、説明力等）を評価します。可否は、修士論文等の提出論文、口述試験の成績、書類審査の結果を総合して判定します。

（２）社会人特別選抜

多様な人材を受け入れるために、社会人を対象とした社会人特別選抜を行います。個々の専門性に即し、口述試験・筆記試験等による適切な選抜試験を実施します。口述試験は、修士論文等の提出論文、希望研究課題を中心に行います。筆記試験（比較文化学講座のみ）では、修士論文等の提出論文、希望研究課題に関連した問題を課します。なお、口述試験・筆記試験等では、分野によっては入学後の教育に必要な外国語能力の審査を含む場合があります。可否は、比較文化学講座にあっては、修士論文等の提出論文、口述試験・筆記試験の成績と、書類審査の結果を総合して判定します。社会人間

学講座にあっては、修士論文等の提出論文、口述試験の成績、書類審査の結果を総合して判定します。

（3）外国人留学生特別選抜

多様な人材を受け入れるために、外国人留学生を対象とした外国人留学生特別選抜を行います。個々の専門性に即し、口述試験・筆記試験等による適切な選抜試験を実施します。口述試験は、修士論文等の提出論文、希望研究課題を中心にを行います。筆記試験（比較文化学講座のみ）では、修士論文等の提出論文、希望研究課題に関連した問題を課します。なお、口述試験・筆記試験等では分野によっては入学後の教育に必要とする日本語能力の審査を含む場合があります。可否は、比較文化学講座にあっては、修士論文等の提出論文、口述試験・筆記試験の成績と、書類審査の結果を総合して判定します。社会人間学講座にあっては、修士論文等の提出論文、口述試験の成績、書類審査の結果を総合して判定します。

生活環境科学専攻

【教育理念】

生活環境科学は総合系複合領域学問であることから、広い視野に立って生活環境科学に関する知識を多角的に探究し、それらを統合的に体系化する論理的思考力が必要です。生活環境科学専攻は、生活に根ざした理論と実践の総合的学知を提供し、個々の学問領域における専門的な教育研究を推進するとともに、主体的でリーダーシップを発揮でき、幅広い知識と高度な研究能力と技術を備えた専門職業人として社会に貢献する人材を育成することを目指します。その実現のために、生活環境科学専攻には食物栄養学講座、心身健康学講座、情報環境学講座、住環境学講座、生活文化学講座を設けています。

食物栄養学講座は、病気を予防し、健康を維持・増進する食生活を実現するために、健全で快適な食生活の創造及び現代の食に関する多様な問題の解決を目的として研究・教育を行い、国内外における食物栄養学領域の研究を先導できる女性研究者や、高度専門職業人として当該職域を牽引し、社会に貢献できる人材の育成を目指します。

心身健康学講座は、生活環境や生活習慣の視点から心と体の健康に関する多様な問題の解決を目指し、心身の健康に関連する科学的な知識を総合的に学びます。生活健康学では生体機能という観点から、スポーツ科学ではスポーツを取り巻く諸問題という観点から、臨床心理学コースでは心の健康という観点から、それぞれの分野を先導できる女性研究者や高度専門職業人として当該職域を牽引し、社会に貢献できる人材の育成を目指します。

情報環境学講座は、より良い生活環境を創出する情報環境学の展開を目指し、衣環境学コースでは生活の実態を理解し、衣環境学に関連する諸問題に対し、物質科学、環境科学、分析科学の原理や技術に基づき、改善方策を自ら指導的に進める高度専門職業人や研究者の育成を目指し、生活情報通信科学コースでは現代社会の ICT 環境を構成しつつあるライフ・コンピューティングの観点から生活環境を改善する技術を開発し社会に発信できる高度専門職業人や女性研究者の育成を目指します。

住環境学講座は、日常的な生活から地球環境に関わる諸問題を生活者の視点から総合的に捉え、社会が求める安全で安心できる住まい、かつ快適で魅力的な住環境という要請に応え、住宅から都市にいたる多様な環境と人間生活のあるべき関係に配慮した住環境の構築と管理運営に関する幅広い知識と技能を有する高度専門職業人や女性研究者の育成を目指します。

生活文化学講座は、生活環境に関わるあらゆる事象の中に研究対象を見出すことを特徴とし、発見した諸問題の複雑な相互関連までを人文科学もしくは社会科学領域の研究手法を用いて分析し、研究を現実社会への提言に結びつけることで社会に貢献する高度専門職業人や女性研究者の育成を目指します。本専攻の求める学生像は以下の通りです。

【求める学生像】

- ・個々の学問領域の基礎となる専門知識を有し、新たな認識・知識の獲得に意欲的な人
- ・生活における諸問題を学際的に深く探究しようとする人
- ・専門的知識を再構築する意欲や新しい分野の展開に積極的に関わる意欲ある人
- ・幅広い事業分野で専門職業人として、女性リーダーとして社会貢献を目指す人
- ・さまざまな分野で国際社会に貢献することを目指す人

【入学者選抜の基本方針】

上記の【求める学生像】で示す能力などを有する人を多面的・総合的に評価するため、以下の方法により選抜します。

（1）一般選抜

修士論文（又はその要旨など）、研究計画書、専門性を問う口述試験の結果を総合して可否を判定します。

（2）社会人特別選抜

修士論文（又はその要旨など）、研究計画書、社会人特別選抜を希望する理由書、専門性を問う口述試験の結果を総合して可否を判定します。

（3）外国人留学生特別選抜

修士論文（又はその要旨など）、研究計画書、日本語能力試験成績（又は指導教員が作成した日本語能力に関する所見など）、専門性を問う口述試験の結果を総合して可否を判定します。

自然科学専攻

【教育理念】

自然科学専攻では、自然科学の基盤的学問である数学、物理学、化学、生物学、環境科学の高度な教育・研究を通して、高度な専門分野の知識を基盤に自ら考え行動できるとともに、日々発展している学際・融合的分野の開拓を進められる人材の育成を目指します。その実現のために、専攻に、数学と物理学の教員が協力して教育・研究にあたる数物科学講座と化学・生物・環境科学の教員が協力して教育・研究にあたる化学生物環境学講座を設けています。

数物科学講座は、数学、物理学の視点から諸現象の理解を進め、その応用に向けた複合的なアプローチについて考えます。21 世紀の高度情報化社会を支える科学技術の発展のために、新たな課題を発見し、その課題を解決する能力を持った人材の養成を目指します。

化学生物環境学講座は、化学、生物学、環境科学の学問領域が連携した学術研究を遂行し、物質や生物およびそれらを取り巻く自然環境を総合的にとらえることができる広い視野と正しい倫理観、正確な論理的思考能力をもち、自ら立案した研究課題を独自の視点で解決することで先端的な学問体系の深化に寄与することのできる理系女性研究者の育成を目指します。本専攻の求める学生像は以下の通りです。

【求める学生像】

- ・自ら新たな課題を発掘し、それを基礎科学的観点から解決しようとする人
- ・自然科学全般に興味を持ち、高度に専門的で実践的な学術研究において独創性の高い研究を志す人
- ・人間と環境とのあり方を自然科学の手法に立脚して追求することを志す人
- ・数学、物理学、化学、生物学、環境科学などの基礎科学の素養の上に立って複合的発展的発想を行う能力を育てることの出来る教育者を志す人
- ・人間環境の調和を考慮した物質の合成並びに化学反応に深い知識と技術を持ち、高性能・高機能性材料の新素材の開発を目指す人
- ・人間生活を取り巻く諸問題に対して、生命現象の理解に基づき健康・安全で快適かつ調和ある環境の構築を目指す人
- ・生活物質・素材に関連する深い知識と技術の修得を目指す人
- ・大学、独立行政法人研究機関、企業の研究所などにおける数学、物理学、化学、生物学、環境科学に関連した研究分野の教育研究および研究開発に従事できる中核的人材及び高度な複合科学的教育指導者を志す人

大学院の博士後期課程においてこのような志を実現するためには、前提として博士前期課程において科学研究の遂行に必要な学術的素養を修得済みであること、修士論文研究を通して問題を提起できる広範な学術的視野とその問題を解決できる研究遂行能力を身につけていることが必要です。最先端の科学研究の遂行の上で英語は必要不可欠ですので、英語を読み・書き・聞き・話すのに十分な能力を備えていることを望みます。

【入学者選抜の基本方針】

上記の【求める学生像】で示す能力等を有する人を多角的・適正に受け入れるために、以下の方法により選抜します。

（１）一般選抜

修士論文、又は修士論文の内容を反映しかつ口述試験の題材設定に十分な内容の資料をもとに、本学が行う口述試験及び提出資料（修士論文を含む）書類審査の結果を総合して可否を判定します。

（２）社会人特別選抜

修士論文、又は修士論文の内容を反映しかつ口述試験の題材設定に十分な内容の資料をもとに、本学が行う口述試験及び提出資料（修士論文を含む）書類審査の結果を総合して可否を判定します。

（３）外国人留学生特別選抜

修士論文、又は修士論文の内容を反映しかつ口述試験の題材設定に十分な内容の資料をもとに、本学が行う口述試験及び提出資料（修士論文を含む）書類審査の結果を総合して可否を判定します。

Ⅱ 学 生 募 集 要 項

1. 募集人員

【令和8年10月入学】

専 攻	講 座 〔各専攻・講座の概要は、15頁以降を参照してください。〕	募 集 人 員		
		一 般 選 抜	社 会 人 特 別 選 抜	外国人留学生 特 別 選 抜
人 文 科 学 専 攻	比較文化学講座	若干名	若干名	若干名
	社会人間学講座			
生 活 環 境 科 学 専 攻	食物栄養学講座	若干名	若干名	若干名
	心身健康学講座			
	情報環境学講座			
	住環境学講座			
	生活文化学講座			
自 然 科 学 専 攻	数物科学講座	若干名	若干名	若干名
	化学生物環境学講座			

※秋季（10月）入学の募集人員は、各専攻の一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜の若干名とする。

【令和9年4月入学】

専 攻	講 座 〔各専攻・講座の概要は、15頁以降を参照してください。〕	募 集 人 員		
		一 般 選 抜	社 会 人 特 別 選 抜	外国人留学生 特 別 選 抜
人 文 科 学 専 攻	比較文化学講座	12 名	若干名	若干名
	社会人間学講座			
生 活 環 境 科 学 専 攻	食物栄養学講座	14 名	若干名	若干名
	心身健康学講座			
	情報環境学講座			
	住環境学講座			
	生活文化学講座			
自 然 科 学 専 攻	数物科学講座	10 名	若干名	若干名
	化学生物環境学講座			

※一般選抜の募集人員には、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜の各募集人員若干名を含みます。

2. 出願期間・試験期日・合格発表日等

【令和8年10月入学】

専 攻	出願期間	試験期日	合格発表日※
人 文 科 学 専 攻	令和8年7月24日（金）	令和8年8月21日（金）	令和8年9月8日（火）
生 活 環 境 科 学 専 攻	〃		
自 然 科 学 専 攻	令和8年7月28日（火）		

※ 合格発表の時刻は、いずれも合格発表日の午前10時です。

【令和9年4月入学】

専攻		出願期間	試験期日	合格発表日*
人文学専攻 生活環境科学専攻 自然科学専攻	第1回	令和8年7月24日(金) } 令和8年7月28日(火)	令和8年8月21日(金)	令和8年9月8日(火)
	第2回	令和9年1月5日(火) } 令和9年1月7日(木)	令和9年1月31日(日)	令和9年2月12日(金)
	第3回	令和9年2月2日(火) } 令和9年2月4日(木)	令和9年3月2日(火)	令和9年3月9日(火)

※ 合格発表の時刻は、いずれも合格発表日の午前10時です。

・出願について（郵送のみ）

送付する封筒の表に「人間文化総合科学研究科（博士後期課程）入学志願書類在中」と朱書の上、出願期間内に必着するよう、必ず簡易書留速達郵便で郵送してください。ただし、受験しようとする試験期日に対応する出願期間最終日の前日までの日本国内の受付局日付印のある場合は、出願期間後であっても受理します。

【出願送付先】

〒630-8506 奈良市北魚屋西町
奈良女子大学入試課（Tel 0742-20-3023）

3. 博士後期課程の目的

博士後期課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とします。

4. 標準修業年限 3年

5. 修了要件

博士後期課程を修了するためには、当該課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本学大学院の行う博士論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。

ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとします。

（博士前期課程（修士課程）を優れた業績を上げ1年で修了した者については、博士後期課程に2年以上在学しなければなりません。）

※ 職業を有している、あるいは育児、長期介護、病気等のため一般の学生に比べて研究活動・学習活動への時間数が限られるため標準修業年限で修了することが困難な学生を対象として、事情に応じて標準修業年限を超えて計画的に履修する「長期履修学生制度」を導入しています。

・修了要件の単位数

専攻	人文学専攻	生活環境科学専攻	自然科学専攻
単位数	12単位以上		

6. 博士後期課程修了者が取得できる学位

学位	学位に付記する専攻分野の名称
博士	専攻分野に応じ学術、文学、理学、社会科学、生活環境学又は情報科学

7. 出願資格

奈良女子大学大学院が入学資格として設定している「女子」の概念（日本国籍をもつ場合は戸籍の性別が「女性」、日本国籍以外の場合は法的性別が「女性」）には、女性としての性自認を持つトランスジェンダー女性（MtF）を含みます。

【一般選抜・外国人留学生特別選抜】

次のいずれかに該当する女子に限ります。外国人留学生特別選抜は、日本国の「出入国管理及び難民認定法」の定めるところにより在留資格「留学」（又は「留学」に変更できる在留資格）を有する外国人、又は入学時に取得できる見込みの外国人で、次のいずれかに該当する女子に限ります。

※ただし、秋季（10月）入学は、令和9年3月を令和8年9月と読み替える。

- (1) 修士の学位又は専門職学位（学校教育法第104条第1項の規定に基づき学位規則（昭和28年文部省令第9号）第5条の2に規定する専門職学位をいう。以下において同じ。）を有する者及び令和9年3月までに授与される見込みの者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和9年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和9年3月までに授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和9年3月までに授与される見込みの者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び令和9年3月までに授与される見込みの者
- (6) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者及び令和9年3月末日までに24歳に達する者（注）

【社会人特別選抜】

次のいずれかに該当し、かつ令和9年3月末日までに2年以上の社会経験を経た女子に限ります。

※ただし、秋季（10月）入学は、令和9年3月を令和8年9月と読み替える。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者及び令和9年3月までに授与される見込みの者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和9年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和9年3月までに授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和9年3月までに授与される見込みの者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び令和9年3月までに授与される見込みの者
- (6) 大学を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、もしくは外国の学校が行う通信教育における授業科目をわが国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本学大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者※（注）

※次のイ及びロに示す条件を充たす者を含みます。

イ．本学大学院入学時において、大学卒業後2年以上各種の教育機関・研究機関及び地方自治体・企業等において研究に従事した経験を持つ者であること。

ロ．学術著書、学術論文、技術報告、実用新案、特許等において修士論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者であること。

- （注）一般選抜、社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜のいずれの選抜においても、出願資格（6）により出願しようとする者は、出願に先立って、本学大学院の入学資格審査を必要とします。本学ホームページ（<https://www.nara-wu.ac.jp/nyusi/inkouki.html>）から「奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科（博士後期課程）資格審査申請書」の様式をダウンロードし、所定の事項（学歴、職歴、及び業績等）を記入の上、最終学校卒業証明書及び成績証明書並びに学術論文や研究成果等、審査上参考となる資料と、郵便番号・住所・氏名・電話番号を明記の上、レターパックプラスを同封し、次表に対応する期限までに（いずれも必着）入試課に提出してください。

「ご依頼主」欄は空欄とし、品名は「書類」と記入したものを二つ折りにして提出してください。

レターパックプラスの「保管用シール」は返信用のため、はがさないでください。

審査結果は、出願期間の開始日までに通知します。

なお、資格審査申請書の様式をダウンロードできない場合には、入試課（TEL 0742-20-3023）にご連絡ください。

試験実施月	提出期限
8月【令和8年10月入学】【(第1回) 令和9年4月入学】	令和8年6月26日（金）
1月【(第2回) 令和9年4月入学】	令和8年11月13日（金）
3月【(第3回) 令和9年4月入学】	令和9年 1月12日（火）

8. 出 願 手 続

出願区分等により、提出書類が異なるものがあるので注意してください。

また、「コピー」と記載のある書類以外は、必ず原本を提出する必要があります。

※ただし、秋季（10月）入学は、令和8年4月を令和7年10月に、令和9年3月を令和8年9月と読み替える。

提出書類	注 意 事 項	奈良女子大学大学院 博士前期課程を 令和8年4月から令和 9年3月までに		左記 以外 の者
		修了見込み の者	修了した 者	
入 学 志 願 票	本学ホームページ (https://www.nara-wu.ac.jp/nyusi/inkouki.html) か ら所定の用紙をダウンロードしてください。	○	○	○
検 定 料 納 付 確 認 書 ・ 受 験 票 ・ 写 真 票	本学ホームページ (https://www.nara-wu.ac.jp/nyusi/inkouki.html) か ら所定の用紙をダウンロードしてください。 - 検定料（30,000円）は、 銀行ATMより、下記の口座に振り込んでください（振込 手数料は、入学志願者の負担とします）。 銀行名：三井住友銀行 支店名：奈良支店 預金種別：普通預金 口座番号：1356315 口座名義： <u>国立大学法人奈良国立大学機構 検定料口 榊 裕之 ダイ ナコクリツ イガ クコウ ケンテイリョウグチ サキ ヒロキ</u> - 全ての金融機関で振込可能です（ただし、ゆうちょ銀行 からの振込は、ゆうちょ銀行に口座がある方に限られま す）。 - 振込後、ATMから発行される「利用明細書」を検定料納 付確認書（本学所定用紙）の所定欄に貼り付けて、提出 してください。なお、「利用明細書」は、本人控用とし て必ず写しを取っておいてください（振込について確認 させていただく場合に必要となります）。 - 必ず、入学志願者本人の名前で振り込んでください。ま た、振込者名の前に必ず「11」をつけてください（例： 11 ナ ハコ）。振込者名が入学志願者本人でない場合及び 振込者名の前に「11」の番号が付されていない場合は、 本学において入金確認できないことがあります。その際 は、出願が認められませんのでご注意ください。 - 出願前3か月以内に撮影した写真（縦4cm×横3cm）を 受験票・写真票の指定欄に貼付してください。	○	○	○
（ 検 定 料 ）	本学大学院博士前期課程を令和8年4月から令和9年3 月までに修了又は修了見込みの者は、検定料の納付を要し ません。	×	×	○
宛 名 票 （日本国内の連 絡先を記入する こと）	本学ホームページ (https://www.nara-wu.ac.jp/nyusi/inkouki.html) か ら所定の用紙をダウンロードしてください。 合格者への合格通知書発送等に使用します。確実に郵便 物が受け取れる住所を記入してください。	○	○	○
修士課程修了 （見込）証明書 又は学位授与 証明書（学位授 与申請受理証 明書）	【修士課程修了（見込）証明書】 博士前期課程（修士課程）又は専門職大学院のもの （注1） 【学位授与証明書・学位授与申請受理証明書】 大学改革支援・学位授与機構（または、大学評価・学位 授与機構）のもの	○	○	○
成 績 証 明 書	大学院博士前期課程（修士課程）又は専門職大学院のもの。 ただし、大学院修了（見込）者以外の者については、最終 学校の成績証明書。（注1）	×	○	○

修士論文等	【修士の学位又は専門職学位を有する者（それらに相当する学位を授与された者を含む。）】 ・修士論文又は修士論文を提出できない場合にはそれに代わる学術論文 3部 ・参考論文 3部（※1） ・論文要旨 3部（※2） 【博士前期課程（修士課程）又は専門職学位課程修了見込みの者（それらに相当する学位を授与される見込みの者を含む。）】 ・修士論文又は在学する大学院に修士論文として提出予定の論文若しくは修士論文を提出できない場合にはそれに代わる学術論文 3部（※3） ・参考論文 3部（※1） ・論文要旨 3部（※2） 【7. 出願資格（6）〔一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜共通〕に該当する者】 ・出願資格審査により提出した学術論文又は研究成果等 3部 ・論文要旨 3部（※2）（※4）	○	○	○
研究計画書	原則として日本語により、希望研究課題の題目を明記の上、内容を1,200字程度にまとめて3部提出してください。	○	○	○
社会人特別選抜を希望する理由書（社会人特別選拔出願者のみ）	社会人特別選抜を希望する理由を1,200字以内にまとめて1部提出してください。	○	○	○
日本語能力についての証明書（外国人留学生特別選拔出願者のみ）	日本語能力を確認できる書類（日本語能力試験成績通知書又は指導教員が作成した日本語能力に関する所見等）があれば提出してください。	×	×	○
住民票の写し（省略不可）等（外国人留学生特別選拔出願者のみ）	現在日本に在住している外国人にあっては、市区町村発行の「住民票の写し（国籍・地域、在留資格、在留期間の満了の日等、記載事項の省略は不可）」を、それ以外の外国人にあっては、パスポート（国籍のわかる箇所）のコピーを提出してください。	○	○	○
オンライン入試連絡票（オンラインによる口述試験の受験を希望する者のみ）	人文科学専攻（社会人間学講座）、生活環境科学専攻、自然科学専攻志願者は、本学会場での対面による受験を原則としますが、7ページの表に記載の期日までに認められ、オンラインによる口述試験の受験を希望する者は、ホームページより「オンライン入試連絡票」をダウンロードし、必要事項を入力の上、提出してください。 URL： https://www.nara-wu.ac.jp/nyusi/inkouki.html	○	○	○
返信用封筒（日本国内の連絡先を記入すること）	受験票等送付のために使用します。宛先を明記した定形封筒（長形3号）に460円分（定型郵便110円＋簡易書留350円）の切手を貼付したものを提出してください。	○	○	○

（※1）参考論文は、必ずしも提出する必要はありません。

（※2）論文要旨は、提出する論文のすべてについて、次のとおり提出してください。

専攻名	論文の要旨の内容	部数
人文科学専攻 生活環境科学専攻 自然科学専攻	日本語によるもの A4判用紙2枚, 1,200～2,000字程度 英語によるもの A4判用紙2枚, 600～1,000語程度	選択 3部

（※3）生活環境科学専攻食物栄養学講座及び心身健康学講座並びに自然科学専攻化学生物環境学講座の志願者で博士前期課程（修士課程）修了見込みのものにあっては、在学する大学院に修士論文として提出予定の論文の内容を反映し、かつ、口述試験の題材設定に十分な内容の資料（A4判用紙10枚程度で、日本語による場合6,000～10,000字程度、英語による場合3,000～5,000語程度）を3部提出することにより、これに代えることもできます。なお、この場合には論文要旨に代えて、提出する資料の要旨を上記（※2）に応じて3部提出してください。

（※4）大学卒業後の調査・研究の実績を証明できる内容を記載した研究成果を提出した場合には、論文要旨に代えて、提出する研究成果の要旨を上記（※2）に応じて3部提出してください。

（注1）出願書類のうち、英語以外の外国語で書かれた証明書には和訳又は英訳を添付してください。

9. 選 考 方 法

修士論文等の提出論文、本学が実施する試験の結果等を総合して選考します。

10. 試 験 内 容 等

①人文科学専攻（比較文化学講座）

試験項目	試験時間	備 考
筆記試験	10：00～12：00	提出論文、希望研究課題に関連した問題を課します。
口述試験	13：30～	提出論文、希望研究課題を中心に行います。

人文科学専攻（比較文化学講座）志願者は、筆記試験・口述試験の受験に際し、本学への来学が必要です。（オンラインによる受験はできません。）また、口述試験での液晶プロジェクターの使用は認めません。

②人文科学専攻（社会人間学講座）、生活環境科学専攻、自然科学専攻

試験項目	試験時間	備 考
口述試験	10：00～	提出論文、希望研究課題を中心に行います。

人文科学専攻（社会人間学講座）、生活環境科学専攻、自然科学専攻志願者は、本学会場での対面による受験を原則としますが、指導希望教員に連絡をとって、7ページの表に記載の期日までに学務課大学院係(daigakuin@cc.nara-wu.ac.jp)にオンライン入試連絡票の写しを提出し（メール添付可）、大学院入学試験実施委員会が認めた場合、オンラインによる受験※が可能です。

また、本学会場（対面）で受験する場合は、口述試験で液晶プロジェクターの使用を認めます。それぞれ、入学志願票所定欄の該当箇所を○で囲んでください。

各受験者の口述試験の日時等は、受験形式（オンライン・対面）を問わず、あらためて通知します。本学会場（対面）で受験しても、オンラインで受験しても、実施内容、採点・評価基準及び可否判定基準に差異はありません。

※ウェブ会議システム Zoom を使用した遠隔によるもの。詳細については、下記の「11. オンラインによる口述試験の受験について」を確認してください。

11. オンラインによる口述試験の受験について

本学会場での対面による受験を原則としますが、対面での受験が難しい特段の理由があると大学院入学試験実施委員会が認めた場合、オンラインによる受験が可能です。

※人文科学専攻（社会人間学講座）、生活環境科学専攻、自然科学専攻志願者のうち7ページの表に記載の期日までに認められた希望者を対象

オンラインによる口述試験の受験を希望する場合は、以下の事前準備等が必要です。また、それらにかかる費用については、全て、受験者の負担となります。

（1）使用するアプリケーションについて

ウェブ会議システム Zoom を用いて通信します。事前の接続テスト[参照：11 頁(4)]の前日までに、試験当日に使用する PC に「ミーティング用 Zoom クライアント」の最新版をインストールし、Zoom テストサイトにて、自身の映像・音声についてのセルフテストを実施してください。また、Zoom ミーティングを練習し、操作に慣れておいてください。

※Zoom のダウンロードセンター <https://zoom.us/download>

※Zoom テスト <https://zoom.us/test>

（2）使用機器及び通信環境について

【使用機器】

- ①デスクトップ PC またはノート PC
- ②ウェブカメラ（PC 内蔵/外付けのどちらでも可。）
- ③ヘッドセット（ヘッドホン・マイク）

PC 内蔵のスピーカー・マイクは、音質やハウリングの問題が生じる恐れがありますので、ヘッドセットやイヤホンマイクの使用を推奨します。

④電話（通信トラブル等が発生した場合の緊急連絡用）

オンライン入試連絡票（参照：11 頁(4) [注]）に記載した電話番号の電話を用意してください。

【通信環境】

安定した通信環境（安定した Wi-Fi 通信あるいは有線 LAN 接続通信）を準備してください。

通信時間は、待機時間も含めて2時間程度必要となる場合がありますので、通信量制限にかからな

いようにあらかじめ契約内容を確認しておいてください。

※Zoomの推奨要件については、Zoom ヘルプセンターをご参考ください。

<https://support.zoom.us/hc/ja>

(3) 口述試験を受ける場所について

自宅内の個室等、受験者以外の第三者が立ち入らない静かな場所を準備してください。飲食店・コンビニ・インターネットカフェ・公共機関（大学構内研究室を除く）などのオープンスペースでの受験は認めません。

事前の接続テスト〔下記の（4）参照〕及び口述試験の際にバーチャル背景は使用できません。

(4) 事前の接続テストについて

試験当日の1週間程度前に、ウェブ会議システム Zoom の接続状況の確認を行います。必ず、試験当日と同じ受験環境（使用機器・ネットワーク環境・利用する部屋等）で参加してください。詳細は、オンライン入試連絡票〔注〕に記載のメールアドレス宛にメールにて連絡します。本テストは受験環境等の確認を目的としますので、入学者選抜試験の可否に影響するものではありません。

注：オンライン入試連絡票は、ホームページ (<https://www.nara-wu.ac.jp/nyusi/inkouki.html>) よりダウンロードし、必要事項を入力の上、提出してください。（参照：9 頁）

(5) 通信トラブル等について

試験当日、通信トラブル等が発生した場合は、至急、各担当教員に連絡してください。

状況確認後、通信トラブル等が即座に回復した場合は、試験を再開し、即座に回復しない場合は、当日予定している最後の受験者の後に繰り下げて、再試験を実施します。ただし、再試験の対象となるのは、受験者の責めに帰さない事由による場合のみです。当日の接続状況によって口述試験が出来なかった場合には、欠席とみなされることがあります。なお、原則として、再試験の再試験は実施しません。

(6) 不正防止について

不正防止の観点から、以下の点に注意してください。不正が確認された場合には、たとえ入学後であっても入学を取り消します。

①試験開始前にカメラで周辺を映していただきます。（試験中でも必要に応じ周辺を映していただきます。）試験中プライバシーに係わるものは映らないようにしてください。

②試験担当者が試験の様子を録画する場合があります。（所定の業務終了後に、本学が責任を持って、録画・録音したデータを消去します。）

③試験当日は、本人確認のため、受験票以外にも本人を証明する顔写真入りの証明書（免許証、パスポート、マイナンバーカード、学生証等）の提示を求めることがありますので、準備しておいてください。

④受験者の都合によるミュートは認めません。音声ミュートが続いた場合は、不正行為と判断して試験を中止します。

⑤試験の様子を録音・録画しないでください。発覚した場合は不正行為とみなします。

⑥事前の接続テストを含め、試験に関係する全ての内容を一切口外（SNS 等での発信を含む。）しないでください。

12. 合 格 発 表

合格者受験番号一覧をホームページ(<https://www.nara-wu.ac.jp/nyusi/goukaku.html>)に掲載するとともに、合格者には合格通知書を郵送します。必ず合格通知書をもって確認してください。電話等による可否に関する照会には一切応じられません。

13. 入 学 料 及 び 授 業 料

入学料 282,000 円（予定額）

次の①～③のいずれかに該当する者は、入学料の納付を要しません。

※ただし、秋季（10 月）入学は、令和 8 年 4 月を令和 7 年 10 月に、令和 9 年 3 月を令和 8 年 9 月と読み替える。

①本学大学院博士前期課程を令和 8 年 4 月から令和 9 年 3 月までに修了した者

②再チャレンジ型女性研究者支援制度により入学する者（参照：12 頁）

③博士前期課程修了者博士号取得支援制度により入学する者（参照：13 頁）

授業料 267,900 円（年額 535,800 円のうち半期分）（予定額）

①在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から改定後の授業料が適用されます。

②入学時には、上記入学料、授業料のほか学生教育研究災害傷害保険料など若干の経費が必要です。

③平成16年度から、事情に応じて標準修業年限を超えて計画的に履修する「長期履修学生制度」を導入しています。長期履修を認められた学生の授業料は、認められた履修期間に応じて授業料年額が異なります。

14. 入 学 手 続

合格者は、入学料及び必要書類を提出し、入学手続を行ってください。手続の時期及びその他詳細については、合格通知書と併せて通知します。

なお、修士の学位又は専門職学位を授与される見込みで受験し合格した者は、それぞれ修士の学位又は専門職学位を授与された者について入学を認めます。

また、本学博士前期課程を修了した学生についても、入学手続きを所定の期限までに行わないと、入学できませんので、注意してください。

15. 長期履修学生制度

職業を有している、あるいは育児、長期介護、病気等により、一般の学生に比べて研究活動・学習活動への時間数が限られるため、標準の修業年限（博士後期課程の場合3年）で修了することが困難な学生を対象に、事情に応じて標準修業年限を超えて計画的に履修する「長期履修学生制度」を導入しています。長期履修学生として認められた場合の授業料は、標準の修業年限（3年）に支払う授業料の総額（535,800円×3年＝1,607,400円）を、認められた長期履修の期間の年数で支払うことになります。

入学後、この制度による履修を希望する者は、本学ホームページ(<https://www.nara-wu.ac.jp/nyusi/tyoukirisyu1.html>)を参照の上、申請書類を提出してください。

長期履修の申請は、出願開始前の指定期日までに行う場合と出願書類の提出と併せて行う場合により、審査結果（可否等）の通知の時期が異なります。

（１）出願開始前の指定期日までに行う場合

審査結果（可否等）を出願開始前に通知します。これを希望する者は、次表に対応する期限までに（いずれも必着）申請書類を提出してください。

試験実施月	提出期限
8月【令和8年10月入学】【（第1回）令和9年4月入学】	令和8年6月26日（金）
1月【（第2回）令和9年4月入学】	令和8年11月12日（木）
3月【（第3回）令和9年4月入学】	令和9年1月4日（月）

（２）出願書類の提出と併せて行う場合

合格者には審査結果（可否等）を合格通知と併せて通知します。これを希望する者は、入学志願書類と共に申請書類を提出してください。

「長期履修学生申請書」は本学ホームページ(<https://www.nara-wu.ac.jp/nyusi/tyoukirisyu1.html>)からダウンロードしたものを使用することができます。申請書をダウンロードできない場合には、入試課（E-mail nyusika@jimu.nara-wu.ac.jp）に連絡してください。

なお、長期履修学生の申請並びに審査結果は、入学者選抜試験の合否に影響するものではありません。

16. 再チャレンジ型女性研究者支援制度

博士号未取得者のうち、本学又は他大学の大学院博士後期課程に休学期間を除き1年（長期履修学生の場合は1年相当期間）以上在学し、ライフイベント等（結婚、出産、子育て、親族の介護・死亡、就職・転職、病気等）により退学した者（見込みの者を除く。）を対象として、課程博士の取得を促進する制度（「再チャレンジ型女性研究者支援制度」）を平成31（2019）年度入学者から導入しています。

再チャレンジ型女性研究者支援制度により入学する者からは、入学料を徴収しません。また、入学前の既修得単位認定の上限は10単位とします。

再チャレンジ型女性研究者支援制度の申請は、本学ホームページ（<https://www.nara-wu.ac.jp/daigakuin/re-challenge.html>）を参照の上、次表の期限までに（いずれも必着）申請書類を提出してください。

試験実施月	提出期限
8月【令和8年10月入学】【（第1回）令和9年4月入学】	令和8年7月3日（金）
1月【（第2回）令和9年4月入学】	令和8年11月20日（金）
3月【（第3回）令和9年4月入学】	令和9年1月8日（金）

「再チャレンジ型女性研究者支援制度」申請書は本学ホームページ（<https://www.nara-wu.ac.jp/daigakuin/re-challenge.html>）からダウンロードしたものを使用することができます。申請書をダウンロードできない場合には、入試課（E-mail nyusika@jimu.nara-wu.ac.jp）に連絡してください。

なお、再チャレンジ型女性研究者支援制度の申請並びに審査結果は、入学者選抜試験の合否に影響するものではありません。

17. 博士前期課程修了者博士号取得支援制度

本学大学院博士前期課程又は修士課程を修了し、1年以上の社会経験を経た者を対象として、本学博士後期課程入学と博士号取得を支援する制度（「博士前期課程修了者博士号取得支援制度」）を令和2年度入学者から導入しています。

博士前期課程修了者博士号取得支援制度により入学する者からは、入学金を徴収しません。

申請は、本学ホームページ（<https://www.nara-wu.ac.jp/daigakuin/re-challenge.html>）を参照の上、次表の期限までに（いずれも必着）申請書類を提出してください。

試験実施月	提出期限
8月【令和8年10月入学】【（第1回）令和9年4月入学】	令和8年7月3日（金）
1月【（第2回）令和9年4月入学】	令和8年11月20日（金）
3月【（第3回）令和9年4月入学】	令和9年1月8日（金）

「博士前期課程修了者博士号取得支援制度」申請書は本学ホームページ（<https://www.nara-wu.ac.jp/daigakuin/re-challenge.html>）からダウンロードしたものを使用することができます。申請書をダウンロードできない場合には、入試課（E-mail nyusika@jimmu.nara-wu.ac.jp）に連絡してください。

なお、博士前期課程修了者博士号取得支援制度の申請並びに審査結果は、入学者選抜試験の可否に影響するものではありません。

18. 博士後期課程学生支援 SGC-NEXUS プロジェクト

《『ガラスの天井を打ち砕き（Shattering the Glass Ceiling=SGC）、人々とつながる（NEXUS）姿が期待されています』》

本学大学院では、優秀な女子学生が経済的負担や学位取得後のキャリアパスに過大な不安を抱えることなく、博士後期課程へ進学し研究できる体制を構築することを目的として、博士後期課程学生支援 SGC-NEXUS プロジェクトに取り組み、学生への多面的な支援（経済的支援、研究力向上支援、キャリアパス支援）を行っています。なお、このプロジェクトは国の制度見直しに伴い、2027年度以降は制度内容が変更されることとなり、新制度の公募が実施されています。本学では、博士後期課程学生への支援を継続して提供できるよう、新制度への応募等の対応を行っています。詳細は、本学キャリア開発支援本部ホームページ（<https://cdpd.nara-wu.ac.jp>）を参照してください。

19. 出願の前に相談や手続きが必要な場合について

（1）教育方法の特例措置について

「大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例」の制度に基づき、本学では入学時又は入学後において学業に専念できない事情を有する者に対して、教育上特別の必要があると認められる場合で、かつ、受入側である専攻の事情や教育環境が許す場合には、その者の事情を考慮し、夜間その他特定の時間又は時期（夏季休業など）において授業又は研究指導を行います。

この制度の適用を希望する者は、出願に先立ち、入試課を経由して指導希望教員に必ず相談してください。

（2）トランスジェンダー女性（MtF）の出願について

奈良女子大学大学院では、戸籍などの法的な性別だけではなく、自らの性自認に基づいて「女子」として女子大学で学ぶことを希望する人を令和3年度より受入れています。性自認が女性であるが法的な性別がそれとは異なる場合には、原則として**出願受付開始の1ヵ月前までに**下記の相談窓口までメールで申し出てください。出願を希望する場合は、面談により、出願資格の確認及び入学後の学生生活に関する相談を行います。なお、面談の申請及び面談にかかる秘密は守られ、出願後、面談の内容によって、合否判定の際に不利に取り扱われることはありません。

トランスジェンダー受入相談窓口

E-mail tgsoudan@cc.nara-wu.ac.jp（電話番号なし）

（3）受験上等の配慮について

病気・負傷や障害等のために、受験上及び修学上配慮を希望する場合は、出願受付開始の2週間前までに入試課に相談の上、所定の手続きをしてください。相談は、電話、FAX、メール等いずれの方法でもかまいません。

また、出願後に不慮の事故等により、同様に配慮を希望するに至った場合には、直ちに入試課へ申し出の上相談してください。

必要に応じ、本学において志願者又は介護者等その事情を説明できる者と面談を行うことがあります。

奈良女子大学入試課
〒630-8506 奈良市北魚屋西町
TEL 0742-20-3023 FAX 0742-20-3354
E-mail nyusika@jimu.nara-wu.ac.jp

なお、配慮の対象となる者は、次表のとおりです。

配慮の対象者

区 分	対 象 と な る 者
①視 覚 障 害	・点字による教育を受けている者 ・両眼の矯正視力がおおむね 0.3 未満の者のうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度の者 ・視力以外の視機能障害が高度の者のうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度の者 ・上記以外で視覚に関する配慮を必要とする者
②聴 覚 障 害	・両耳の平均聴力レベルが 60 デシベル以上の者 ・上記以外で聴覚に関する配慮を必要とする者
③肢体不自由	・体幹の機能障害により座位を保つことができない者又は困難な者 ・両上肢の機能障害が著しい者 ・上記以外で肢体不自由に関する配慮を必要とする者
④病 弱	・慢性の呼吸器疾患、心臓疾患、腎臓疾患、消化器疾患等の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度の者又はこれに準ずる者
⑤発 達 障 害	・学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害等のため配慮を必要とする者
⑥そ の 他	・①～⑤の区分以外の者で配慮を必要とする者

20. その他注意事項

- (1) 出願にあたっては、入学後の研究内容について、指導を希望する教員（16 頁・18 頁・20 頁に示す「主任指導教員となりうる者」）に限りません。）に事前に確認することが望ましい。
また、人文科学専攻（社会人間学講座）、生活環境科学専攻、自然科学専攻志願者のうち、オンラインによる受験を希望する者は、必ず、事前に、指導を希望する教員に連絡を取ってください。
- (2) 出願書類等に不備がある場合は受理できません。
- (3) 出願書類等を受理した後は、いかなる事情があっても書類・論文の追加及び変更、返却は認めません。
- (4) 払い込んだ検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。
①検定料を払い込んだが、出願しなかった場合又は出願が受理されなかった場合
②検定料を誤って二重に払い込んだ場合
なお、上記①又は②に該当する場合には、奈良女子大学入試課に連絡してください。
TEL 0742-20-3023 E-mail nyusika@jimu.nara-wu.ac.jp
- (5) (4) により検定料を返還するにあたっては、本人からの申し出に基づき、本学所定の方法により返還します。なお、返還には相当の期間を要しますので、あらかじめご承知おきください。
- (6) 出願書類に虚偽の記入をした者に対しては、入学後でも入学を取り消すことがあります。
- (7) 入学志願票の「志望専攻名及び講座名」の記入にあたっては、この要項の 15 頁以降に記載する各専攻・講座の概要を参照してください。
- (8) 企業等に在職している者は、勤務先の就業規則等の規定により必要な場合はあらかじめ受験の許可を受けてください。
- (9) 大学が取得した氏名、成績及び学修状況等の個人情報、入学後の修学指導並びに学生生活支援のために必要な範囲内で利用することがあります。

21. 学生募集及び指導希望教員並びに研究内容に係る問い合わせ先

奈良女子大学入試課
〒630-8506 奈良市北魚屋西町
TEL 0742-20-3023
E-mail nyusika@jimu.nara-wu.ac.jp

Ⅲ 各専攻・講座の概要、授業科目及び担当教員一覧

人文科学専攻

1. 各講座の概要

講 座 名	概 要
比 較 文 化 学 講 座	本講座においては、高度な知識を身につけ、研究能力を培うために、日本、中国、イギリス、アメリカ、ドイツ、フランスなど各地域の歴史、言語、文学に関する専門科目の授業は基本的に演習形式で行い、また必要に応じて調査やフィールドワークも採り入れています。外国研究では、当該地域の言語を用いた教育も行っています。また、歴史都市「奈良」についての学びを深めるため、国立文化財機構奈良文化財研究所や奈良国立博物館、宮内庁正倉院事務所から客員教員を迎えて、特色ある授業を開講しています。
社 会 人 間 学 講 座	本講座は、社会、文化、地理環境、人間関係、教育などに関する総合的で高度な理論と方法論を習得するために、各専門分野に応じた演習形式中心の授業を開講しています。持続可能な社会の構築に貢献する研究のための調査・分析方法の習得やフィールドワークの実践、さまざまな環境における人間行動や心身の在り方を問う研究のための文献・資料の読解や方法論の確立など、社会と人間に関わる多様な授業を展開しています。

2. 授業科目及び担当教員一覧

比較文化学講座

先史考古学特論	◎教授	宮路淳子
歴史考古学特論	客員准教授	和田一之輔
東アジア考古学特論	客員教授	今井晃樹
木簡学特論	客員准教授	桑田訓也
国風文化論	◎教授	西村さとみ※2
日本近代社会文化史論	◎准教授	田中希生
西洋社会文化史論	教授(兼)	林田敏子
アジア文化史論	◎教授	矢島洋一
日本中世社会文化史論	◎准教授	前田英之
日本言語文化表現論	◎教授	尾山慎
中国言語文化分析論	◎教授	大平幸代
中国言語文化表現論	◎准教授	前田真砂美
日本アジア表徴文化論	◎准教授	佐藤有希子
奈良時代文献資料論	客員教授	佐々田悠
日本古典文化資料論	客員准教授	斎木涼子
日本古典文化資料論演習	客員准教授	樋笠逸人
日本アジア言語分析論	◎教授	鈴木広光
日本古代中世文学論	◎教授	奥村和美
日本近世近代文学論	◎教授	磯部敦
欧米比較文学論	◎教授	中川千帆
言語コミュニケーション論	◎教授	須賀あゆみ
言語分析論	講師(兼)	五十嵐海理
言語分析論演習	講師(兼)	松原史典
言語表現論	◎准教授	笹本涼子
イギリス文学分析論	◎教授	斎藤美和
イギリス文学表現論	◎教授	市川千恵子※2
アメリカ現代文学論	◎教授	竹本憲昭※1
言語情報論	講師(兼)	坂井優介
フランス文学表現論	◎教授	高岡尚子
ドイツ文学表現論	◎教授	吉田孝夫

社会人間学講座

人間形成思想史論	◎教授	二井仁美※1
教育システム論	◎教授	保田卓
音楽文化論	◎教授	藤井康之
身体文化論	◎教授	鈴木康史
社会心理学	◎教授	中山満子※1
認知心理学	◎教授	天ヶ瀬正博
臨床発達心理学	◎准教授	狗巻修司
教育心理学	◎准教授	竹橋洋毅
文化社会学	◎教授	小川伸彦※1
計量社会学方法論	◎教授	林拓也
地域社会論	◎教授	水垣源太郎
ジェンダー社会学	◎准教授	三部倫子
都市社会空間論	◎教授	吉田容子※2
地域情報解析論	◎教授	石崎研二
行動地理学	◎教授	西村雄一郎
アジア自然環境論	◎准教授	浅田晴久

◎は、「主任指導教員となりうる者」を示す。

(※1) 令和10年3月退職予定者

(※2) 令和11年3月退職予定者

生活環境科学専攻

1. 各講座の概要

講 座 名	概 要
食 物 栄 養 学 講 座	本講座では、健全で快適な食生活の創造及び現代の食に関する多様な問題の解決を目的として、食物の栄養性・機能性・安全性・調理加工性やヒトの代謝・免疫機構と関連した研究・教育を行います。また、疾病予防の領域において、医学、農学、薬学、情報科学、食生活学、社会医学を基盤として、分子・細胞レベルから生体、さらには人の集団を対象とする疫学研究まで、食物栄養学を俯瞰する視点からの研究・教育を行います。これらによって、国内外における食物栄養学領域の研究を先導する女性研究者や、高度専門職業人として当該職域を牽引し社会に貢献する人材を養成します。
心 身 健 康 学 講 座	本講座は、心身の健康を生活環境や生活習慣の視点から科学的に研究する生活健康科学の領域、身体や運動行動を学際的視点で研究するスポーツ科学の領域、そして、心の成長や課題を科学的視点から研究する臨床心理学の領域から構成されています。多様な分野からのアプローチと本学の特徴である女性の視点を生かした高度な研究により、心身の健康に関する今日的諸問題の発見および解決に貢献できる人材を養成します。
情 報 環 境 学 講 座	衣環境学の領域では、高度な知識を活かした独創性の高い界面化学の基礎研究への動機づけを高め、管理学と関わる洗浄科学、界面化学・物理化学・素材学と関わる繊維構造学、衣環境材料学などの教育研究の場を提供します。生活情報通信科学の領域では、最先端ICTの知識と技術を活かした独立性の高い研究開発への動機づけを高め、コンピュータシステム関連分野における人工知能用プロセッサを含むアーキテクチャならびにシステムソフトウェアの教育研究、ソフトウェア工学関連分野におけるプロジェクトマネジメントを中心とした情報システムの設計開発に関わる教育研究、アプリケーション関連分野におけるライフコンピューティングを中核に据えた人工知能や知的エージェントの教育研究、情報基礎関連分野における計算理論に関わる教育研究、などの場を提供します。
住 環 境 学 講 座	本講座は、日常的な生活から地球環境に関わる諸問題を生活者の視点から総合的に捉え、社会が求める安全で安心できる住まい、かつ快適で魅力的な住環境という要請に応え、住宅から都市にいたる多様な環境と人間生活のあるべき関係に配慮した住環境の構築と管理運営に関する幅の広い知識と技能を有する高度専門職業人や研究者を養成します。本講座では、社会科学的方法を援用する住居論をはじめ、政策論、環境工学、デザイン論などの多様な方法を用いた幅広い教育研究を実施します。
生 活 文 化 学 講 座	本講座は、生活環境にかかわるあらゆる事象のなかに研究対象を見出すことを特徴としており、発見した問題を人文社会科学領域の研究方法で分析します。したがって、学問分野は歴史学、家族社会学、社会心理学、法学、生活経済学、ジェンダー論と多岐にわたるという点で特徴があります。

2. 授業科目及び担当教員一覧

食 物 栄 養 学 講 座

食 と 病 態 論	◎教 授	小 倉 裕 範	
疫 学 特 論	◎教 授	高 地 リ ベ カ	
食生活素材機器分析論	◎教 授	高 村 仁 知	※1
分 子 栄 養 化 学	◎准 教 授	福 井 健 二	
病 態 生 理 学 特 論	教 授	稲 田 明 理	
臨 床 栄 養 代 謝 学	◎専 任 講 師	小 栗 靖 生	

心 身 健 康 学 講 座

環 境 適 応 生 理 学	◎教 授	鷹 股 亮	※1
自 律 神 經 学	◎教 授	吉 本 光 佐	
社 会 脳 生 理 学	◎教 授	横 山 ち ひ ろ	※3
シ ス テ ム 神 經 科 学	◎准 教 授	高 浪 景 子	
リ ズ ム 表 現 行 動 論	◎教 授	成 瀬 九 美	※1
運 動 生 理 論	教 授	星 野 聡 子	
ス ポ ー ツ 社 会 論	◎教 授	石 坂 友 司	
犯 罪 原 因 論	◎教 授	岡 本 英 生	
発 達 臨 床 心 理 学 論	◎教 授	黒 川 嘉 子	
認 知 ・ 行 動 理 論	◎准 教 授	梅 垣 佑 介	
臨床人格心理学特論	専 任 講 師	時 岡 良 太	

情 報 環 境 学 講 座

先端コンピュータシステム特論	◎教 授	松 本 尚	※2
計 算 複 雑 性 理 論	◎准 教 授	鴨 浩 靖	
知識情報システム特論	◎准 教 授	新 出 尚 之	※3
ハイパフォーマンズコンピュティング特論	◎教 授	高 田 雅 美	
ア パ レ ル 管 理 論	◎准 教 授	原 田 雅 史	
纖 維 素 材 分 子 論	教授(兼)	黒 子 弘 道	※2
生活情報通信科学特論		(複数教員)	
音 声 言 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 特 論	◎教 授	須 藤 克 仁	
脳 情 報 学 特 論	◎教 授	水 原 啓 暁	

住 環 境 学 講 座

住 様 式 論	◎准 教 授	室 崎 千 重	
生 気 象 論	◎教 授	吉 田 伸 治	
居 住 環 境 管 理 論	◎教 授	藤 平 眞 紀 子	
居 住 環 境 整 備 論	◎教 授	山 本 直 彦	
景 観 形 成 過 程 論	◎教 授	根 本 哲 夫	
集 住 環 境 計 画 論	准 教 授	加 藤 亜 矢 子	

生 活 文 化 学 講 座

リーガルサービス論	◎教 授	大 塚 浩	
環 境 社 会 心 理 学	◎教 授	安 藤 香 織	
ジェンダー表象論	◎教 授	山 崎 明 子	
ケアとジェンダーの社会学	専 任 講 師	岡 田 玖 美 子	
ジェンダー史学	◎教 授	林 田 敏 子	
生 活 経 済 学 特 論	◎准 教 授	青 木 美 紗	
イノベーション論	准 教 授	安 橋 正 人	

◎は、「主任指導教員となりうる者」を示す。

- (※1) 令和9年3月退職予定者
- (※2) 令和10年3月退職予定者
- (※3) 令和11年3月退職予定者

自然科学専攻

1. 各講座の概要

講 座 名	概 要
数 物 科 学 講 座	本講座は、基礎科学的視点と応用科学的視点が深く関わる自然現象、あるいは人間と自然や社会が関わる新しいタイプの現象を対象として、諸現象の中に潜む法則や原理の発見、論理構造の解明、さらには未知の現象の予測など、数理的方法を用いた教育研究を行います。現代の高度情報社会を支えるべく科学技術が発展していくためには、新たな技術革新が不可欠と考えられます。そのためには諸現象の理解や応用への複合的なアプローチについて教育研究を行うことが必要となります。このような視点に基づき本講座では、数学、物理学が連携した高度、かつ最先端の教育・研究を通じて、基礎科学としての数学と物理学の高い水準の専門的知識と技能を備えるとともに、広い視野と深い専門知識を基盤にして諸現象を理解し課題を解決する能力と、現代社会の中で活躍できる力を身につけた人材の育成を目指します。
化 学 生 物 環 境 学 講 座	本講座は、分子レベルで繰り広げられる反応・物性・機能性あるいは生体分子や遺伝子の振る舞いなどミクロな事象から、器官や組織が示す生命現象や生物個体とその集団機能などのマクロな事象、更にはその生命活動が展開されている地球環境の過去から現在への変化などグローバルな事象まで、時間的、空間的に幅広い階層をもつ自然界の事象を対象とした研究と教育を行います。化学コースでは分子を基盤とする新たな反応場や機能の開発、ミクロな世界での状態変化のダイナミクス、あるいは化学反応や合成による物質変換などについて理論・実験の両面から教育研究を行います。生物科学コースでは生体分子、細胞、組織、生物個体やその集団が示すさまざまな生物現象と、生物間や生物－非生物間の相互作用についての解明を目指した教育研究を行います。環境科学コースでは、人工衛星データなどを用いた全球レベルの地球環境変動と数理的手法を用いた生物集団の構造・進化と物理化学的環境との関わりに関する教育研究を行います。 3つのコースが連携して展開される教育研究により、物質、生物、地球環境の調和の取れた発展へ向けて高度な知識を身につけ、社会に貢献できる人材を養成するのが本講座における目標です。

2. 授業科目及び担当教員一覧

数 物 科 学 講 座			
低次元位相幾何学特論	◎教 授	村 井 紘 子	
グラフ理論と幾何学的トポロジー	◎准教授	片 桐 民 陽	
保型表現論と代数学	◎准教授	岡 崎 武 生	
解析数論	◎教 授	梅 垣 由美子	
調和解析学	◎教 授	森 藤 紳 哉	
相互作用系の数学特論	◎教 授	篠 田 正 人	
確率現象解析学	◎准教授	嶽 村 智 子	
モジュライ空間の幾何学	◎教 授	稻 場 道 明	
非線形解析学特論	◎准教授	佐 野 めぐみ	
素粒子統一理論	◎教 授	高 橋 智 彦	
場の量子論特論	◎准教授	大 木 洋	
素粒子実験物理学	◎教 授	宮 林 謙 吉	
クォークグルーオンプラズマ物理学	◎准教授	下 村 真 弥	
高エネルギー原子核衝突実験物理学	◎准教授	蜂 谷 崇	
中間エネルギー核反応論	◎教 授	比 連 崎 悟 ^{※2}	
ハドロン物理学	◎准教授	永 廣 秀 子	
X線天文学特論	◎教 授	山 内 茂 雄	
観測的宇宙物理特論	◎准教授	太 田 直 美	
粒子線物理学	◎准教授	石 井 邦 和	
量子凝縮系の物性	◎教 授	吉 岡 英 生	
強相関電子系の物性	◎准教授	土 射 津 昌 久	
回折物理学	◎教 授	山 本 一 樹	
金属間化合物の相	◎准教授	松 岡 由 貴	
ソフトマター物理学特論	◎教 授	狐 崎 創	
複雑系物理学特論	◎准教授	下 川 倫 子	
多様体の力学系と不変量	◎准教授	杉 本 佳 弘	
数 物 科 学 特 論		(複数教員)	

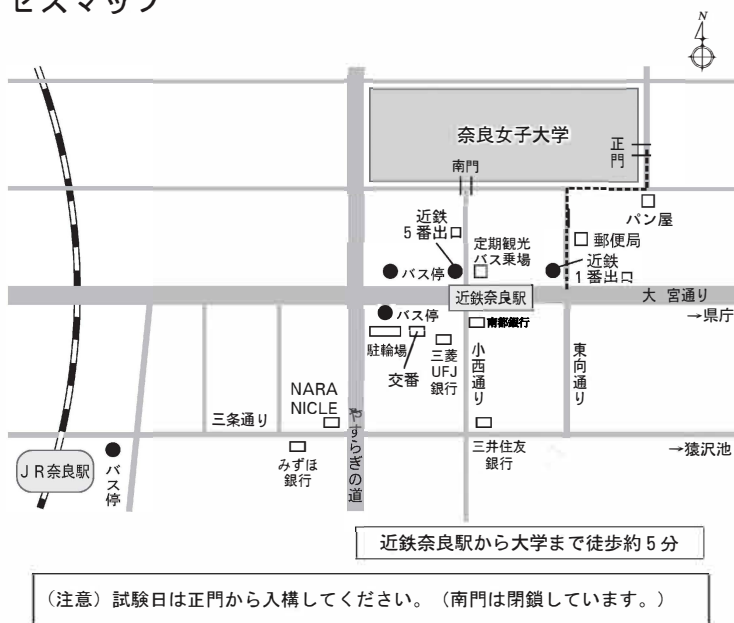
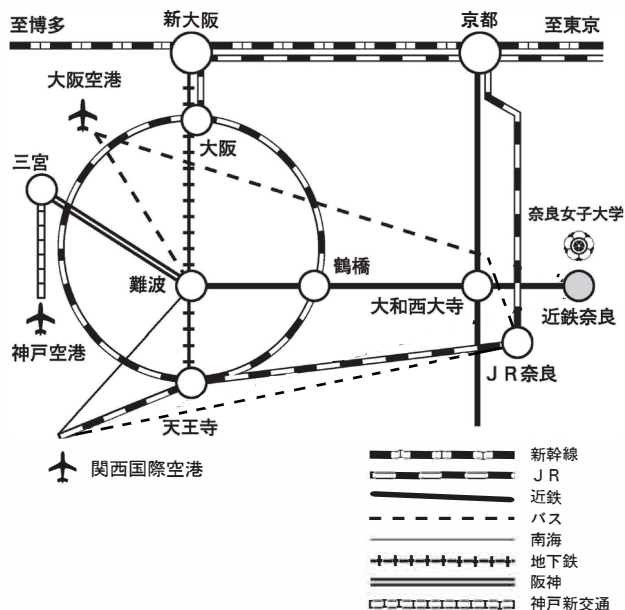
化 学 生 物 環 境 学 講 座			
集積型金属クラスター科学	◎教 授	中 島 隆 行	
機能性分子変換論	◎教 授	片 岡 靖 隆 ^{※2}	
錯体触媒設計論	◎教 授	浦 康 之	
溶液ナノ化学	◎教 授	吉 村 倫 一	
機能分子集団理論化学	◎教 授	衣 川 健 一 ^{※2}	
金属蛋白質設計論	◎准教授	高 島 弘	
複雑多分子系反応ダイナミクス特論	◎准教授	太 田 靖 人	
金属錯体固体物性論	◎教 授	梶 原 孝 志	
生体分子科学	◎教 授	藤 井 浩 ^{※1}	
生体触媒設計論	◎准教授	本 田 裕 樹	
構造有機化学	◎准教授	松 本 有 正	
生体分子の非線形分光計測	◎准教授	近 藤 正 人	
生体膜構造・機能論	◎教 授	鍵 和 田 聡	
植物環境生理論	◎教 授	酒 井 敦	
群集生態学論	◎教 授	遊 佐 陽 一	
植物分子環境応答論	◎准教授	奈 良 久 美	
微生物ゲノム生物学論	◎准教授	岩 口 伸 一 ^{※1}	
多細胞進化分子論	◎教 授	西 井 一 郎	
進化生態学論	◎准教授	井 田 崇	
応用生態論	◎教 授	片 野 泉	
原生生物環境応答論	◎教 授	杉 浦 真由美	
感覚生理論	◎准教授	川 野 絵 美	
発生ダイナミクス論	◎准教授	岡 本 麻友美	
分子行動生理論	◎准教授	堀 沙 耶 香	
細胞分子代謝・制御論	◎准教授	清 水 隆 之	
植物形態形成学論	◎准教授	高 塚 大 知	
生態遺伝学論	◎准教授	京 極 大 助	
地球陸域リモートセンシング論	◎教 授	村 松 加 奈 子 ^{※2}	
地球環境気象論	◎准教授	久 慈 誠	
数理生物学論	◎教 授	高 須 夫 悟	
数理モデル解析論	◎教 授	高 橋 智	
惑星大気論	◎准教授	野 口 克 行	

◎は、「主任指導教員となりうる者」を示す。

(※1) 令和10年3月退職予定者

(※2) 令和11年3月退職予定者

アクセスマップ



京都から

近鉄京都線（急行）で近鉄奈良まで約45分+ **徒歩約5分**

新大阪から

J R東海道本線で大阪駅へ、J R大阪環状線（外回り）で鶴橋へ、近鉄奈良線（快速急行・急行）で近鉄奈良まで約60分+ **徒歩約5分**

大阪から

J R大阪環状線（外回り）で鶴橋へ、近鉄奈良線（快速急行・急行）で近鉄奈良まで約50分+ **徒歩約5分**

難波から

近鉄奈良線（快速急行・急行）で近鉄奈良まで約35分+ **徒歩約5分**

天王寺から

J R大和路快速でJ R奈良まで約30分+近鉄奈良までバス5分+ **徒歩約5分**

J R大阪環状線（内回り）で鶴橋へ、近鉄奈良線（快速急行・急行）で近鉄奈良まで約45分+ **徒歩約5分**

大阪空港から

空港バスでJ R奈良まで約80分+近鉄奈良までバス5分+ **徒歩約5分**

関西空港から

空港バスでJ R奈良まで約100分+近鉄奈良までバス5分+ **徒歩約5分**

南海空港急行で難波へ、

近鉄奈良線（快速急行・急行）で近鉄奈良まで約110分+ **徒歩約5分**

J R関空快速で天王寺へ、J R大阪環状線（内回り）で鶴橋へ、近鉄奈良線（快速急行・急行）で近鉄奈良まで約100分+ **徒歩約5分**

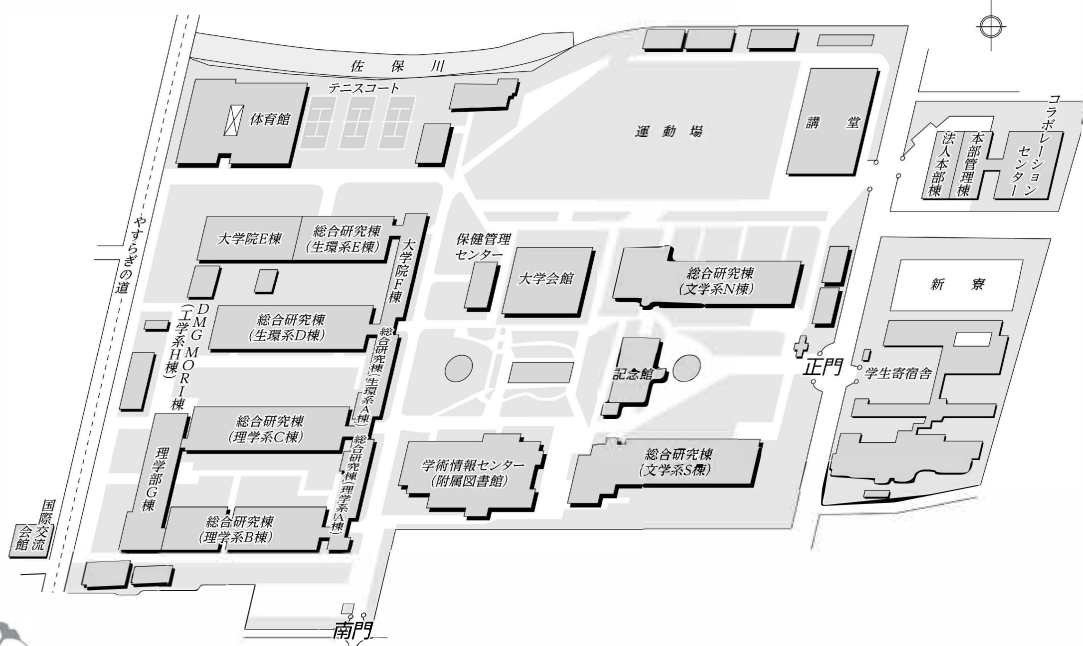
三宮から

阪神なんば線・近鉄奈良線（快速急行）で近鉄奈良まで約80分+ **徒歩約5分**

神戸空港から

神戸新交通ポートアイランド線で三宮へ、阪神なんば線・近鉄奈良線（快速急行）で近鉄奈良まで約100分+ **徒歩約5分**

キャンパスマップ



奈良女子大学
Nara Women's University

奈良女子大学ホームページ
入試案内ページ

<https://www.nara-wu.ac.jp/>
<https://www.nara-wu.ac.jp/entrance.html>